



シルバー通信

前期号：第41号の1（平成22年度）
発行：大阪府シルバーアドバイザー連絡協議会
編集：大阪府シルバーアドバイザー連絡協議会広報
〒540-0012 大阪市中央区谷町5-4-13
大阪府谷町福祉センター
072-753-9087（理事長宅）
ホームページ URL <http://sa-renkyo.sakura.ne.jp>

”SA活動を人任せにしない”

自主自立の道を目指して

SA連協 理事長 和佐義顕（いけだ 19期・都市環境）



シルバーアドバイザー（SA）の使命である地域福祉等のボランティア活動を始めて20年が経過しました。「SAって何?」「何をしているか分からない」「SAって、上からの目線で見ているところがある」「当初からの意味が変わってきている」「SA、SAと云わない方がいい」「ボランティア活動にSAと区別する必要はない」「どこが、違うの?」「SAや認定証と、SAにまつわる言動を意識すればするほど、さまざまな反応が返ってきます。

これまでの講座がNPOに移管されて、この2年間、SA連協としてSA会員同志の交流、仲間意識の確立、SAの知名度向上に重点をおいた活動を目指してきました。まだまだ、納得のいく方向は遠いですが、この活動の向上がなければ、SAの未来はありません。

移管後の高大におけるSA講座の位置づけは教養講座と同一視されており、これまでは少なくとも明確にSA養成講座と教養講座は区別されており、その目的は異なるものと認識できていました。修了後も、それぞれの地区別、会員組織での仲間意識も、その目的に沿って異なる活動を続けています。

私達の主体は活動であって、その活動の範囲も自分たちが住まいる地域での活動です。長年にわたって地域密着でやってきた成果を問いながら、社協等との連携が取れている地

区と取れていない地区との温度差もあります。地域活動は地域でのネットワークの中で、地区SAを含む各団体が、連携を組むことが必要かと思えます。その中で、SA活動も生きてくるはずですよ。

テーマ型（あえて趣味型という）のボランティア活動が多くなるのは、分かりやすいと思うからで、SAはそういうテーマ型ボランティア活動を地域全体の中で、地域福祉に寄与するために、どのように推し進めていくべきか？ その役割を担うことを求められていると思えます。

一つの考えとして、SAは地域型ボランティア活動をする中間支援組織の立場にあると考えます。これには、いろいろ意見が分かれるでしょうが、このような方向を指向するならば、講座を受講することによって基本がマスターされ、その後、現場実践活動をする中で育成されていくものと思えます。さらに組織内学習、研修等で補完していけば力強いものとなるでしょう。

自分たちのことは自分たちで学び合い、自分たちで育成していくことにつきます。SAの組織は、生涯学習をボランティア活動に展開するプロセスを備えており、自主自立の確立の道を目指しています。皆様方も、一度、種々考えをめぐらしてみてください。

連協と地区 S A の責任と任務

会員が生き生き 活動できる環境を

S A連協 事務局長 小川 忠夫 (吹田 18 期・世代間交流)

S A連協は「地区 S A」の集まりです。「地区 S A」の活動があつてはじめて S A連協が成り立つことは自明の理です。「地区 S A」の活動の原点は、当然のことながら「ボランティア活動」であることを確認したいと思います。

S A連協の大きな役割は、この「地区 S A」のボランティア活動への支援でありましょう。

S A連協はもっと社会的な役割と責任を認識して幅広い活動をすべきだという声も聞きます。それを否定するものではありませんが、それが最優先されるべきであるとは思っていません。

会員の一人ひとりが、いかに生き生きとしてボランティア活動ができるか、それができるように活動を組み立て推進していくことこそ、S A連協と「地区 S A」の責任と任務だと思っています。

「地区 S A」で組織として活動している日常的なボランティア活動は大きく分けて「歌体操とおもちゃ作り」と考えています。他にもいろいろなイベントや S Aとして参加している活動もいろいろありますが、後のボランティア活動は多くの場合、個人ボランティアとなり、なかなか組織としての活動が難しいのが実態です。会員 100 名を超える、ある地区 S A で調査したところによると、会員の参加しているボランティア先が 69 個所、所属しているボランティア・グループ数が S A 以外に 109 グループと驚くほど多岐にわたっていることがわかりました。

そのほとんどは、地区 S A としての活動



ではなく、個人が S A 以外の多くの仲間とのつながりでボランティア活動が行われている。つまり S A の会員は S A の会員でありながら S A をあまり当てにしないで活動している実態が見えてきます。

地区 S A の会員として仲間意識を持ち、情報もある程度共有しながら、実際のボランティア活動は S A の外に多くのステージがあることがわか

りました。

そこで、地区 S A の役割は何かと改めて考えてみました。

「地区 S A」は会員資格として長い間「S A 養成講座修了者」と限定して運営をしてきました。しかし、現実のボランティア活動の実態を見ると、この S A 養成講座修了者という資格が絶対条件として必要であるのだろうかと思えます。

S A 会員の多様なボランティア活動に対しての支援と S A 会員以外のボランティア仲間づくりの活動が相まって、今後の「地区 S A」の発展につながるのではないかと考えています。

大阪府知事からシルバーアドバイザーとしての認定書をいただいておりますが、これは資格と言うより『ボランティア活動をしっかりやっってくださいよ』という励ましの証だと思っています。この証をいただいている我々は、S A を超越して多くのボランティア仲間を育てる活動を広げてゆく務めがあると思っています。

私たちはボランティア活動にやりがいと誇りを持って進んでこそ道が開けるものと確信しています。

みなさん共にがんばりましょう。

「S Aあり方委員会」の設置 -

目標は熟議でS A指針

理念倒れにならぬ筋道 提示

大阪府S A連協役員会

「熟議って何？」これは新聞の社説に掲載されたことばです。「幅広い当事者が集まり、とことん討議し、課題や解決策を探し出す。立場の違いを了解し合い、時には自分の意見を変え、納得し、何ができるかを考える。熟議とはそんな場だ。熟議を通すと、誰もが当事者意識を持つことになる。受益者であると同時に問題解決の役割を担う。参加型の民主主義の土台だ」とあります。

今日まで、役員会、理事会と問題意識を抱かえながら、とことん問題解決まで至ったことが

ない、S Aの根幹に係わる課題があります。この数年来、S Aを取り巻く環境の変化を考えた場合、この先、果して、明るい展望を描けるものか？理念と現実のギャップをどう縮めていくか？方向転換を模索するか？さまざまな課題を大上段にふりかぶり、真摯に熟議を通してS Aの行く末を明示できるか？府S A連協設立 20周年の節目に、果たすべき役割であると思いい「S Aあり方委員会」を立ち上げたいと思います。

個人個人の意識の問題、組織の問題、関係機関の問題、高大の問題、揶揄される認定書（名ばかり認定書）、S Aの名称（名ばかりS A）等々、考えられる問題整理から、理念倒れにならない、永続性のある道筋を提示できればと考えます。

役員を含む、各ブロック代表及びS Aの生みの親である大阪府、ファイナ財団、地域との関わりの深い社協などの外部の人たちにオブザーバーとして加わっていただき、明日のS A指針なるものを年度末を目標に進めたいと思います。

平成 22 年度 大阪府S A連協 役員

(2010年10月末現在)

理事長	和佐 義頭 (いけだ 19期 都市環境)	渉外委員長	大川 正彦 (藤井寺 18期 国際交流)
副理事長	渉外担当 大川 正彦 (藤井寺 18期 国際交流)	企画委員長	樋渡 照男 (高 槻 19期 地域活動)
副理事長	企画担当 樋渡 照男 (高 槻 19期 地域活動)	企画・おもちゃ部会長	森田 展生 (寝屋川 7期 世代間交流)
副理事長	広報担当 石川 和男 (大 阪 19期 地域活動)	企画・歌体操部会長	岡崎 裕子 (堺 14期 国際交流)
事務局長	総務担当 小川 忠夫 (吹 田 18期 世代間交流)	企画・健康増進部会長	
事務局	次長 木場昭和子 (大 阪 18期 健康福祉)	広報委員長	石川 和男 (大 阪 19期 地域活動)
会 計	中川 明子 (いずみ 17期 地域活動)	広報・広報誌部会長	石川 和男 (大 阪 19期 地域活動)
会計監査	大津 豊 (泉州南 17期 世代間交流)	広報・ホームページ部会長	前田 正勝 (大 阪 20期 福祉IT)
会計監査	立石 修一 (羽曳野 18期 地域活動)	広報・福祉IT部会長	榎本 龍彌 (いけだ 21期 福祉IT)
		都市環境部会長	和佐 義頭(兼理事長)


 渉外委員会

渉外担当としての想い

夢は = 目標 実行は = 計画

渉外委員長 大川 正彦 (藤井寺 18 期・国際交流)

夢は = 目標

昨年、広報を担当、広報誌 20 周年記念誌を発行し「大阪府 S A 連絡協議会」の昨日・今日・明日をテーマにしましたが、20 年の歴史の中で組織の衰退を感じ、危機感を持ちました。

大阪府 S A 連協の明日は会員の減少、高齢退会、入会 S A 修了者のコース激減などで灯が消える

大阪府 S A 連協と各地区 S A の「灯を消さない S A ファンづくりを行う」を今年のテーマとしました。

目標 = キーワード「S A 受講者の昨日・今日・明日」対策

実行 = 計画

1) 具体的推進策 (アクションプラン) 三つのプロジェクトの立ち上げ

渉外委員会に委員長、副委員長、書記を置く (大川、下中、関野)
各プロジェクトにリーダー、副リーダー、書記を置く

プロジェクト 1 = S A 認定書発行 P G (松田、下中、小林)

プロジェクト 2 = 高齢者連携窓口 P G (田村、子川、辻)

プロジェクト 3 = アクティブシニア協会窓口 P G (安居、関野、大川)

2) 大阪府 S A 連協 = 24 地区の「S A 修了生の昨日・今日・明日」取り組み

プロジェクト = 昨日の人
修了生とのコミュニケーション相互理解のため、修了生の大阪府認定窓口を自ら行う。

事務局を設置 (案内、回収、推進、検収、査定、大阪府へ認定手続き、認定書配布) を行う大阪府、高齢者大学校との連携。

プロジェクト 2 = ・今日の人・明日の人

現役生徒の定期交流会、研究発表のアドバイス

プロジェクト 2 = 明日の人
来期の募集要項に積極的に参画、S A の P R 記事、現地ボランティア現地研修会を授業カリキュラムに高大との連携定期開催

プロジェクト 3 = 明日の人
アクティブシニア協会主催のフェアに責任組織として参画、担当会場の運営に当たる

大阪府連協 = 24 地区の明日を
各地区の協議会を媒体として、地区、ブロック会議、理事会で検討提案をしましょう。


 企画委員会

企画委員会の基本的な考え方

企画委員長 樋渡 照男 (高槻 19 期・地域活動)

今年は歌体操とおもちゃ部会は助成金を確保して各ブロックの賛同を得て交流会、研修会を実施しておりますが、それぞれの活動は、

すでに地区活動の中核となり、なくてはならない存在に育っています。しかし、継続して活動をして行くには高齢化やその他の原因が

あり、S A 講座を終わられた方のみでの加入では無理と考えられますので、各ブロックとの交流を深め、その原因の解決方法を検討する施策も必要と考えます。

(1) 歌体操部会

昨年から各ブロックの開催とフェスタ形式の本体がシルバーアドバイザーの取り組む開催が地区のブロック長の賛同も得やすく、各地区の歌体操の会員にも賛同が得られて、大きな成果が得られて歌体操部会の開催も、早く大枠を決めることが可能になりました。しかし、地区の歌体操の活動の内容も統一されたわけではなく、地区によってその取り組み方法も違いがあり、それは各地区の特性として違う地区との交流で、全体のレベルアップにつながると思います。

< 今年の歌体操の予定 >

北ブロック 平成 22 年 10 月 25 日 (月)
午後 1 時 ~ 4 時
高槻市民総合交流センター 7 階
第 6 会議室

中ブロック 平成 23 年 1 月 24 日 (月)

午後 1 時 ~ 4 時
大阪豊崎東会館

南ブロック 平成 22 年 9 月 24 日 (金)

午後 1 時 ~ 4 時
堺総合福祉会館 4 階 第 3 遊戯室 無事終了

(2) おもちゃ部会

今年は助成金を頂いて各ブロックとブロック形式で開催を予定しております。各地区の活動も高度の技術が必要なものもありますが、やはり、安全で簡単な工程のものが好まれるように思われます。子供の育成と市民と地区のおもちゃ作りに関心がある方へのおもちゃ作りの楽しみや安らぎと、友だちづくりをして、その輪を広めて行くのが目的です。地区のお祭りや学校への出前講座の折に、おもちゃ部会の会員の方を講師として参加してもらい、より効率の良い技術で、出来る方法も教えて頂きながら活動して行ければと考えております。

開催日時や場所につきましてはいま、各ブロックで検討中です。

広報委員会

広報委員会の基本の考え方

広報委員長 石川 和男 (大阪 19 期・地域活動)

広報委員会は広報誌部会・ホームページ部会・福祉 I T 部会・都市環境部会の 4 つの部会で構成されている。主に S A 会員への S A 連協の活動状況と将来の方向などについて発信し、広報による会員に理解して頂くことを主な活動としています。

広報誌部会

年複数回の広報誌を発行し、活字を通して現在の S A 連協活動を取り巻く環境や活動状況、将来について会員の方々が考える主張や発信を主に掲載し、また、各支部でのボラン

ティア活動状況もできるだけ掲載し、広報として記録紙の役目を果たしていきます。

ホームページ部会

ホームページ部会はパソコンを通じて会員だけでなく、広く世の中の人々に S A 連協のボランティア活動状況、主張や方向付けを広報していくことが目的です。現在、多くの支部でホームページの画面の更新が行われていない状況です。今年から前田部会長のリーダーシップにより従来のホームページの仕組みを変更し、

S A 連協本部関係は現在のホームページを基本として存続し、各支部のホームページはブログで構成することとし、各支部から代表が参加し鋭意、学習して来年の春までには新しい S A 連協のホームページが完成される予定です。

福祉 I T 部会

大阪府下の授産施設で作られている各種製品を I T 部会独自のホームページ上で発信し、各授産施設の商品販売をサポート支援、協働しています。まだまだ授産施設の未開拓があり、みなさんも参加して、それぞれの地域授産施設のサポート支援をしてくださるようお

願います。

都市環境部会

今年初めて発足した部会で、設立の目的は『地域環境・自然環境』というより、我々の身の回りの地域環境の保全などに行政・各団体と S A 理念の下に各地区 S A とともに連携、協働を図って行くこととして、今後の活動は目的に沿って府全体に啓蒙・啓発していく方策を考える。

環境のイメージを知ってもらいたいためのイベント・講演会を通じて S A メンバーに発信する。

大阪府の土木事務所の地域支援課と協働するという考えです。

部会だより 都市環境 部

” エコップ部会へのお誘い ”

都市環境部会長 和佐義顕（いけだ 19 期・都市環境）

二つ目は、緑（緑化）の問題。

三つ目はヒートアイランドの問題です。

この三つとも、植物の果たす役割が、大きく関与しています。

植物に関する専門家の遠藤先生を顧問にお迎えして、行政他ボランティアグループとのパイプ役やご相談等をしながら、広く、啓発、啓蒙活動等を行って行きたいと思っています。

最近では、府内 7 つの土木事務所に地域支援課という部署があり、” 地域力の再生 ” をうたい文句に事業を展開しています。各地区 S A においては、当該する土木事務所と連携をとり新しい活動としてメニューに加えていただき、24 の地区から、このエコップ部会に会員登録をされ、全体活動で各地区と情報交換や意見交換をしながら、大阪府とは、環境行政の協働を模索したいと思っています。

「環境は待ってくれない」といいます。また、広域でもあります。是非、各地区とも、この視点を変えた取り組みに参加され、大阪府 S A 連協の総力として、大阪府各地区等行政への支援にもなればと、思っています。

今年度から発足した新しい部会です。この 3 ~ 4 年前から、当時の新設専攻コースの受け皿の必要性が言われていましたが、延び延びになっていました。

S A 活動の主たる対象は高齢者・子ども等というのが大方の見方かと思えます。

しかし、S A の使命が、地域福祉の推進という役割からすると、住みよい地域、幸せな地域づくりを目指す活動に、環境を取り上げることが、現在のニーズにマッチするものと思えます。いまや、キーワードは” 環境と防災 ” といわれる時代です。

その時代の流れにそって、地球環境・自然環境とありますが、もっと身近な自分たちの身の回り、住んでいる地域の環境に目をやって、S A の役割を考えたいと思います。

吹田の山田での S A 養成講座 一年間の授業で学んだことは、大都市・大阪において、三つの大きな課題があることです。

一つは、水（= 河川）の問題（上下水道・都市型水害）

部会だより
福祉 I T 部会



福祉夢ひろば

授産施設の製品紹介

独自のHP 立ち上げ

福祉 I T 部会長 榎本 龍彌 (いけだ 21 期・福祉 I T)

福祉作業所 (授産施設) では、障がいを持った人たちが自分たちの能力を生かして仲間と協力して製品を作っています。家にもっているのではなく、作業所で自分ができることをやりながら、いろいろな人との交流を深め、さまざまな手作り製品を作り、販売することにより、社会とのつながりを持っています。

私たちは I T 技術を活用して、彼らが作った製品を、私たちの独自のホームページで紹介することで、彼らとそれを必要とされる方とのささやかな橋渡しができることを願って、ボランティア活動を始めました。



ホームページのサイト名は「福祉夢ひろば」で、アドレスは次のとおりです。

<http://fukushi2yume.web.fc2.com>

S A 連協のトップページからリンクされています。

メンバーは自分の地域の授産施設に活動の目的を知ってもらい、掲載を希望する施設に対しては、施設の「運営・事業目的」

「主な授産製品」「授産製品の販売」の記事・写真を集め、各施設のページに仕上げています。部会発足当初は 8 施設でしたが、現在、12 施設 + 1 授産ショップを掲載しています。これからもさらに活動を広げ、大阪府下全域の多くの施設に参加してもらいたいと思います。

地域の授産施設の訪問、「福祉夢ひろば」に掲載する記事の取りまとめ、各施設のページの作成と更新、このサイトを広めるために関連機関との折衝など、多くの活動が必要です。地域近隣の授産施設に訪問できる方、HP 用のデジタル写真を撮影・編集できる方、ホームページの作成・更新ができる方、これらができなくても、少しでも障がいを持った人たちの役に立ちたいと思われる方は是非部会に参加してください。

部会では毎月 1 回定例会を開き、地域の授産施設に関する情報交換、ホームページの作り方の研修などを行っています。多数のご参加を期待しています。



部会だより
ホームページ部会

組織情報はホームページ

活動情報はブログで

ホームページ部会長 前田 正勝 (大阪 20期・福祉 I T)

6 月からホームページ部会を担当させていただくことになりました。自らの非力と言うこともあって「ホームページは“凝らない”“拙速を尊ぶ”」をモットーに進めていきたいと思っております。ご協力をよろしく申し上げます。

重要になる H P での情報提供

S A 仲間でホームページの話をしているとき「ホームページを見ている会員なんか少ないで」「連絡はやっぱり紙でないと」という言葉をよく聞きます。確かに実感としてホームページを見ている方は3分の1ぐらいの感じです。そして3分の1は、いつか見たいなあと思っている人、残る3分の1はパソコンを使わない(使えない)ことに信念を持っている人です。

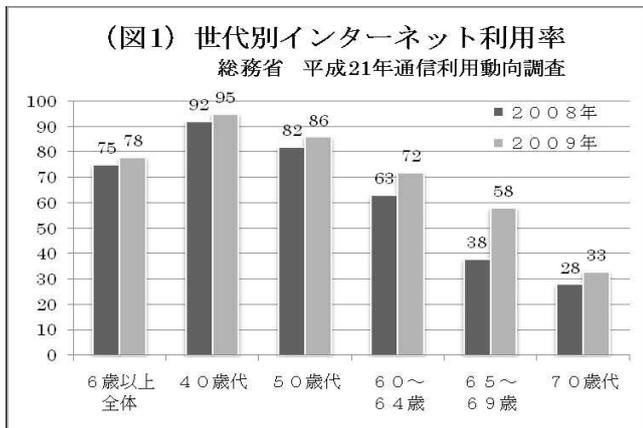
総務省の調査(図1)をみると、2009年12月末のインターネット利用率は65~69歳が

S Aの次代層や支持層にS Aのことを伝えるにはインターネットの活用が一番といえます。紙で伝えるよりもはるかに多くの方に、瞬時に、また安く伝えられます。

この調査結果で特筆すべきことがもう一点あります。先ほどの実感のところで「3分の1はいつか見たいなあと思っている人」と書きましたが、これを裏付けるような調査結果が出ているのです。

インターネット利用率の伸び(前年比)がそれで、S Aの中心層である60歳代でインターネット利用が急激に伸びています。60~64歳では63%から72%へ、また、65~69歳では38%が58%へと大幅に増えています。

このことは「現在は3分の1の会員しか見えない」ホームページが、近いうちに「3分の2の会員がみている」ホームページになることを示しています。



58%、70歳代が33%となっています。S Aでの実感は、ほぼ調査結果と合っていますので、これが会員の方の実態といえます。

一方、S Aの次代層である60~64歳ではインターネット利用率は72%で、4人に3人が利用しています。また、S Aの活動を理解し支援してくれる層である50歳代、40歳代ではそれぞれ86%、95%であり、ほぼ全員がインターネットの利用で情報を収集しています。つまり、

タイムリーな情報提供に

ホームページとブログ併用

会員の中で今後増加するインターネット活
用者、そして、S Aの次代層、支持層への情報
提供に、ホームページの役割はますます大きく

(図2) HPとブログの連携イメージ

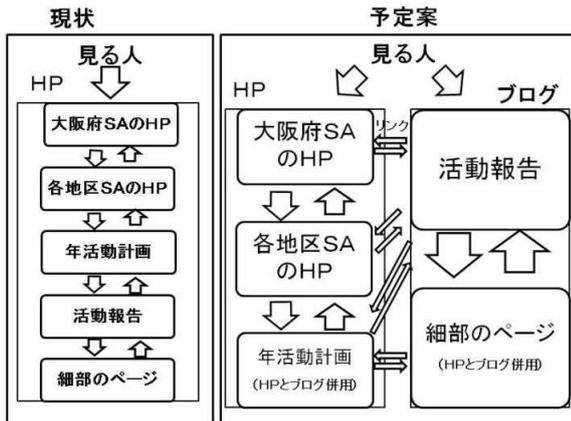
SAの概要 (目的・組織・計 画・歩みetc)	活動の実績 と計画	会そのもの の活動	会員相互の 勉強・研修	会員のボラ ンティア・地 域活動
HP	最近の結果	HP	ブログ	ブログ
	直近の計画	HP	ブログ	ブログ

なっていきます。

そこでは“タイムリーで継続した情報提供”、
言い換えますと“いつ見ても最新のことが載っ
ている”ホームページが求められます。

ホームページ部会ではこのニーズを少しでも実現したいという考えから「ホームページと

(図3)現状と予定案との比較



ブログを併用」に取り組んでいます。「思い通りの形にできるが専門的な知識がいる」ホームページは主にS Aの概要(目的・組織・歩みなど)で使用し、タイムリーな掲載が要求される地区活動や会員の活動は「自由さは少ないが簡単に作れる」ブログを使用しようというものです。(図2、図3参照)

来年4月からの本格運用を目指して、この8月から例会兼研修会、そして補習の勉強会をそれぞれ月1回開催しています。写真⑥は梅田の生涯学習センター・メディア研修室での研修風景です。早い地区では12月からブログが立ち上り、

試行をしていきますので是非ご期待ください。

このようにブログ立ち上げの準備は進んでいますが、一方で、ブログに掲載する記事ネタ(文章と写真)が集まらないことには宝の持ち腐れになってしまいます。地区内で活動計画や記事ネタが集まる体制づくりも是非お願いいたします。

24 地区の活動ブログがどんどんと立ち上がり、ホームページと連携すれば、現在の府S Aトップページは、S A活動のポータル・サイト(地区S AやS A会員個人の活動ブログを見るためのインターネットの入り口)になります。会員、S Aの次代層、支持層に毎日見てもらえるサイトを目指して、よろしくご協力をお願いします。



S A 終了後の活動から

渡辺 貞夫(泉州南 16 期・地域活動)

山と海がある大阪府最南端の町に憧れ、定年後、この町に来て8年目を迎える。それまでは仕事一筋で地域とは無縁の人間が、新興住宅の自治区長を引き受けたことからシルバーアドバイザー養成講座への道を歩む。研修結果を直ちに実行することで更なる展開が生まれ、自治区内では毎月の定例清掃活動がコミュニティの場として定着、年3回のイベント(6月・バーベキュー大会、10月・リフレ祭り、12月・餅つき大会)へとつながる。イベント用の地域通貨の発行やおもちゃ作りなどもS Aで学んだ成果が生きている。

さらには“NPO法人まちづくり岬”の立ち上げ、町中事業としての高齢者の林間学校(現・大人の林間学校)は、何度もマスコミの

取材を受けて注目を浴びるほどに成長、築102年の木造校舎(休校中)と散策して20分の場所には、手づくりの里山(孝子の森)がある。里山は切り開くことで沢山の山野草が芽を出し、自然の宝庫として育ちつつある。昔を思い出しながら描いた「林間学校」ストーリーが現実となり、多くのシニアの方々を迎える取り組みになったのは、うれしいことである。

日帰りの「大人の林間学校」に加えて、年2回(春と秋)は”山で1日・海で1日”一泊二日「大人の林間・臨海学校」コースまで進展、学校では音楽教室で昔を偲び、山では散策・草花教室や工作教室を行い、海ではカヌーやクルージングと新しいチャレンジの場があり、良き思い出として大好評を頂いている。

S A 終了後の活動実績として、参考になるべくまい進したいと思う次第です。

S A 講座にインターンシップ制導入

座学より現場実践で人材を育成

大阪府 S A 連協

大阪府 S A 連協と高齢者大学校は平成 23 年度の募集要項作成にあたり、カリキュラムの内容を検討してきましたが、高大は S A 講座に現場実践研修としてインターンシップ制の導入を明らかにしました。その受け入れ先を大阪府 S A 連協に打診がありました。

高大の説明によると、座学より現場の実践で講座内容の充実を図るため、ボランティア活動の実践教育ができる受け入れ先を、S A 連協で提案してほしいとの申し入れがありました。

大阪府 S A 連協は検討の結果、ボランティア現場でのリーダーとして戦力となりうる人材を養成するため協力して行くが、地区によって協力のできる地区と受け入れ困難な地区があり、ブロック別で対応できないか具体案を検討することになりました。

検討の結果、大阪府 S A 連協は高大への具体的提案として次の 4 項目を申し入れました。

- 受け入れ先はブロック別として、研修生を 3 つのグループに分けて受け入れる
- ブロック単位で実習先地区 S A を検討する
- 全地区を対象として、受け入れ先の内容確認調査をする
- 高大側に希望施設がある場合は協力する。
- 例えば地区社協での研修や観光協会、ボランティア・センターなど

この提案に対し、大阪府高齢者大学校は講座内容を地域型、実践型のカリキュラムに全面的に組み換えたいとの回答がありました。

S A 連協は制度の要綱が示された段階で、各地区 S A で実質的な検討に入ることとなります。

会員みなさんのご協力をお願いします。

< インターンシップ制の種類 >

見学型 会社の部署現場を見学し、設備

や雰囲気を見る

体験型 仕事を手伝ったり与えられた課題に取り組んだりする

実践型 実際の営業やプログラミングなどで成果を期待される

グループワーク型 小グループで課題に沿って共同作業をする

専門分野特化型 専門分野の研究所や工場見学、業務体験

講演・レクチャー型 社員の講演などを聞き、勉強する

私の S A 活動から

都市環境コース

「環の会」ゆっくりと楽しく

和佐義頭 (いけだ 19 期・都市環境)

私が受講した「都市環境コース」は、平成 18 年 4 月より新設コースして、スタートしましたが、3 年 (3 期生まで) で閉講しました。このコースでは一年間、大阪府内における環境問題について環境行政の職員・研究員の方々からレクチャーを受けました。初めての講座ということもあり、講師の遠藤先生をはじめ、講座の教務室 (ファイン財団) 大阪府都市整備部の方々は、大変だったと想像します。カリキュラムも座学以外に大型の公共施設見学などを織り込み、まさに、手づくり、手さぐりの状態でした。

しかし、大阪の抱えている環境問題について、各方面からお話いただき、新鮮味ある講座でした。また、NHK の放送大学から授業風景の取材もありました。

平成 19 年 3 月修了後、その想いをカタチにしようと、7 月に「都市環境・環の会」という 1 期生のグループを組織しました。スタートは、河川月間という、キャンペーンに参加し、船に乗り込んだり、淀屋橋、天満橋等で、チラシ配りなどの、啓発、啓蒙活動から始まりました。また、大阪府都市整備部河川課 芝池課長 (現・池田土木事務所所長) 他、行政サイド・ボランティア団体 (里山倶楽部他) との意見交換会や、環境の講演会に

参加するなど、しておりました。

その後の活動は、吹田・北山田公民館での月一回の定例会（情報交換他）を中心に年度計画にもとづき、茨木土木事務所との協働として、三島府民センターや、花いっぱい運動（花プロジェクト）に参加の小学校等に出向いたり、バリアー検証（道路）に参加など、また、他地域でのゴーヤによる

地域緑化活動、出前講座（小学校での防災学習）の支援等、地道な活動を続けています。平成 20 年 1 月からは、年 3 回の会報（環の会だより）を発刊し、“つながり”を大切に、記録にとどめています。

これからも「ゆっくり」と「やれるだけ」「継続できる」楽しい会でありたいと思っています。



地区 S A の活動報告

S A 四条畷

ボランティアフェスタに参加

伝承おもちゃの製作指導

平成 22 年 9 月 12 日（日）四条畷市のボランティア団体により「広げよう つながりのあるまち」をテーマにフェスティバルが開催されました。

ステージの各種出演、催し物と食べ物、バザー、参加団体の活動状況のパネル展示報告、参加団体の活動体験などのコーナーが設けられていた。

我が S A 四条畷は「伝承おもちゃ作り」コーナーを確保。「ブンブンこま」「回転ピエロ」「風車」の三種の作品の製作指導に当たった。特に初登場の「回転ピエロ」は好評であった。



S A 守口

ボランティアフェスタに参加

牛乳パック筆立 実演と体験

藤井信治郎（守口 17 期・福祉）

7 月 18 日開催された第 17 回守口ボランティアフェスティバル（守口市市民会館・さつきホール）に出展参加しました。

当日は 29 団体（守口ボランティア団体 21、協力団体 8）が参加し、バザー、模擬店、紙芝居、

人形劇、おもちゃ作り、展示などのさまざまな催しが行われ、また、和歌山かつらぎ町の物産販売やスタンプラリーも実施されました。

午後 2 時から恒例の大阪府立淀川工業高校 1 年生によるファーストコンサートが開催されました。

我が「S A 守口」はキーホルダー、牛乳パックの筆立ての実演、体験として出展しました。大勢の方々に来店いただき、準備した材料、キーホルダー 120 個分、牛乳パックの筆立て 70 個分は早々になくなり、大盛況で終了いたしました。

大阪府 S A 連協とは

大阪府 S A 連絡協議会は府下 24 市域の大阪府シルバーアドバイザー養成講座修了者の団体です。シルバーアドバイザーの活動は講座修了者が、長年にわたり培った経験や知識、技術、特技を活かして地域のボランティア・グループやボランティア仲間と友好な関係を保ちながら地域福祉活動など、さまざまなボランティア活動を行っています。

活動の目的は「まちづくり」「子どもの健全育成」「高齢者の自立支援」「自らの生きがいづくり」などの地域社会に貢献することにあります。

名 称 大阪府シルバーアドバイザー連絡協議会
 会員数 1,000 余名（平成 22 年 10 月末現在）
 代表者 和佐 義顕（大阪府シルバーアドバイザー連絡協議会理事長）
 連絡先 〒540-0012 大阪市中央区谷町 5 - 4 - 13
 大阪府谷町福祉センター
 072-753-9087（理事長宅）

ホームページ URL <http://sa-renkyo.sakura.ne.jp>
 <注>アドレスが変更になりました。
 ご注意ください。

厳しかった残暑も去り、秋の深まりは徐々に風の中を感じられるようになりました。今年は記録的な猛暑となり『熱中症』が日本中を駆けめぐりました。

この暑さに拍車をかけたのが政治です。参院選は民主党が惨敗し、ねじれ国会を生み出しました。

また、民主代表選は「政権交代はマニフェストに期待する国民の支持を得たから」と、マニフェスト実現を掲げる陣営と財政難から「一部見直しもやむなし」とする現役首相との熱い戦いは、世論に後押しされた現役首相に落ち着きました。

編集後記

一方、会員の減少に悩むシルバーアドバイザー（略称 S A）はどうでしょうか。マニフェストというべき会則をめぐり、考えに差があるようです。会員の減少は各地区共通の悩みですが、門戸を開放し、柔軟に対応する地区 S A と会員は講座修了者の原則を守り、狭間で苦しむ地区など、理念と現実とのギャップは単なる規約の問題ではないようです。減少に歯止めをかけることができるのでしょうか。

組織が N P O に法人化さ

れ、S A 講座は隅に追いやられた感は否めません。その存在意義が問われています。講座を維持、発展させるのはわれわれ自身の問題です。その価値を高めるのは S A 会員一人ひとりの知恵と知恵を生かした企画力、地域に密着した活動です。

講座に取り入れが検討されるインターンシップ制も人材を育て、活動を促すためのひとつでしょうか。

その危機感が『S A あり方委員会』発足へと結びついたのでしょう。

今年度、後期号を発行する予定ですが、原稿を随時、募集しています。奮ってご応募ください。（編集子）